

## 令和6年度 第2回 大久保東小学校運営協議会 議事録

日時 令和6年12月4日(水) 10:00～13:00  
場所 さいたま市立大久保東小学校 大けやきルーム(南校舎2階)  
参加者 大久保東小学校PTA会長 渡部 秀之(会長)  
おやじの会会長 山崎 栄慈(副会長)  
上大久保中学校長 高久 正行  
図書ボランティア代表 唐澤 厚美  
チャレンジスクール実行委員長 高田 稔  
民生委員・児童委員 片山 加代子(欠席)  
大久保地区民生委員・児童委員 遠藤 功  
大久保領家西自治会長 飯田 一恵(欠席)  
大久保東公民館館長 南 崇子  
大久保東児童センター館長 小室 美香  
校長 目黒 良作  
教頭 佐藤 信孝  
教務主任 和久井 剛志  
学校地域連携コーディネーター 安藤 盛光

### 1 開会【教頭 佐藤 信孝】

### 2 挨拶

学校運営協議会会長 渡部 秀之 様  
本校校長 目黒 良作

### 3 学校の現状について

#### ①健康、安全について(養護教諭)

- ・感染症の流行について。
- ・歯科治療の割合について、令和5年度 72.5 から令和6年度 76%に増加。まだまだ課題はあるが、取り組みを継続していく。
- ・けがについて。
- ・近視の子どもが増えてきた。環境的な原因もある。学校でもできることを検討していく。

#### ②学校事務(事務主事)

- ・学校集金のキャッシュレス化を検討している。
- ・上大久保中学校では、青木信用金庫の口座で行っている。

#### ③給食(食育)

- ・地場産物の活用、給食委員会児童の活動紹介。

- ・物価高騰に伴う対応について。厳しい状況で、果物の提供や品数を調整しながらやりくりをしている。

#### 4 学校評価について

#### 5 校内視察、授業参観

#### 6 【熟議】「地域・保護者・学校がともに児童を育む 協働の仕方について」

- P T Aのフェスティバルや花火大会など、ともに楽しむことが大切ではないか。
- 小学生のうちから防災意識を高められるような催しを行うことも大事ではないか。
- 大久保領家では夏祭りを行っている。
- 夏祭りは、自治会からP T Aに協力を得るようにすると子どもが参加しやすくなるのではないか。お祭りは子どもの思い出づくりとなる。
- 自治会の活動もコロナを経て変わってきた。自治会館を地域で自由に使えるようにするとよい。
- コロナの4年間でP T Aの活動もストップしてしまっている。周辺の学校でP T Aがなくなってしまうたり、委員会を再編したりしているが、本校は比較的古いままの委員会が残っている。最初は知らないことばかりだが、活動を通していろいろな人に関わってもらうことは悪いことではなく、楽しんでいると思う。自治会や他の方と、また、行事などに関わっていくことで保護者にとっても地区の価値がわかる機会となる。
- 学校、P T A、地域のコミュニケーションが大切である。
- 体験してみればじめてわかることがある。上大久保中学校はP T Aの方が体育祭に関わっている。P T Aの意識が高いように感じる。
- 大人が楽しそうに行事を行うことが大切。次世代につなぐためには、小・中学生が大事。地域の行事を行う担い手が育たない。保護者の参加がむずかしい。そのためにも、小・中学生が参加するような仕組みを作らないと保護者は参加しない。
- 夏祭りでは、神輿の担ぎ手が少ない。外部の方を連れてきたが、近くの地域の方に協力してもらう形を考えていきたい。
- P T Aも自治会を頼ってほしい。
- 児童や生徒は、地域の行事に部活動などの関係でやれないことも多い。
- P T Aの活動は役員をくじ引きでやることになったが、やってみたら楽しかったし、そのことが現在のように委員を引き受けるきっかけとなっている。
- 子どもが卒業してP T Aを離れると情報がなくなっていまい、外から見ると、できる人だけでやってしまう感じがする。P T A活動から離れてしまい、少し寂しいが、以前のようにガッツリできるかと言えどできない。
- 中学生から、お囃子がやりたいと言われたことがある。
- 中学校によっては、体育祭で神輿を担ぐ機会を設けていた。子どもたちもやらせてみて、楽しいと感じる、地域でもやってみたいと思うことにつながることもある。地域のものを見せる場や機会を作るとよいのではないか。

- 地域活動の入口がPTAであると思う。関わってみると、行事や人を知る機会となる。強制はできないがいろいろなことを知る機会となるのがPTAだと思う。
- 自治会とPTAが密に連絡を取り合うようにしていきたい。
- 安全も含めて、住みやすい地域をつくるためには様々な団体が連携を図ること大事。
- この地域は、小学校から大学まである。地域資源を活用できるとよい。大学生を呼び込むための働きかけ工夫が必要。
- 地域ぐるみで行うことは不登校対策になる。そのためにはあいさつを大切にしていきたい。
- 児童センターでは、催しものに4年生が6人くらい主体的にかかわり、内容の検討、ポスター作り、司会進行などを行っている。
- 公民館の催し物では、6年生がボランティアで参加している。
- PTAをなくすか、なくさないかと言っている中、この地区はすごい。PTAや記念式典実行委員の方はセンスがよい。
- 子どもたちのために、学校のためにも一緒にやることの意味がある。
- 子どもがかかわると保護者がかかわる。ともにやってくれた大人がいる経験が大切だと思う。
- つながりが大切である。自治会とPTA、地域資源を大切にやるのが大切である。

## 7 いじめ対策委員会

- 生徒指導より学校の現状についての報告（生徒指導主任）
  - ・ いじめの実態や生徒指導の具体例
  - ・ 長欠児童の実態報告
  - ・ スクールダッシュボートの活用の紹介
  - ・ SNS関係の問題
- ○ インスタグラムによる知らない人との交流と児童ポルノ関係の問題が中学校では起こっている。
  - 新1年で毎年起こる。新しい友達ができてつながると問題も生じる。地域も含めて対応していかなければならない。
  - 保護者に向けて啓発していかなければならない。以前はPTAの講演会を行ったことがある。与えているのは保護者なのだから家庭でルールを決めることが大事。
  - 正しく判断できないのが子どもなのだから、保護者が責任をもたなければならぬ。

## 8 閉会【教頭 佐藤 信孝】

## 9 給食準備参観・給食試食（任意：4名参加）

※次回 令和7年2月7日（金）10：00